

東雲云苗羅通信

東雲云苗羅通信

東雲中学校校長室通信

文責 校長 渡邊 和彦

平成二九年六月十九日発行第八号

東雲快進撃

中学生の部活動の集大成、最後の晴れ舞台、市総体すなわち県総体予選球技、陸上、水泳大会が始まり、先陣を切つて、6月6日本校卓球部が予選に臨みました。男子は一年から三年まで、女子は二年生以下の出場です。

男子は直川中学校を下し、見事団体優勝、深紅の優勝旗を学校に持つて帰つてくれました。個人戦も一位から三位まで独占しました。他四名が個人戦での県総体出場有資格選手となり、団体戦補欠メンバーも含め十人近くが佐伯市の代表として県大会へ駒を進めます。また、女子も二年生ながら個人戦で大健闘しました。今後が楽しみです。

※上は優勝旗と一位の賞状を学校に納めてくれる、中村君と河向君

今週は陸上、水泳

6月20日、火曜日は陸上の予選、22日木曜日は水泳の予選と続きます。生徒会の皆さんが壮行会を開いて下



さつたので、激励の言葉を贈りました。たまたま、昨日、私の愛するジャイアンツの亀井選手が「ここで打たなかつたら命を取られる。そんな覚悟で打った」的な発言をして感動を呼んだから、というわけではないのですが、「泳ぐ腕の一かき、走る足の一步に感謝や魂を込めて！」と話しました。相手との勝負でなくて、自分との勝負をして下さいね。重くても辛くても、弱い自分の甘えた心に打ち勝つて下さい。そうしたら、結果は輝かしい物となつてくれるはずです。運動会の時に見せた、転んでも怪我しても、立ち上がり戦おうとする、皆さんの東雲魂！再び燃え上がらせてね！



東雲バンド

公民館の大浜さん、本校の卒業生で生徒の保護者もある、池田さん、上浦在任の有名な音楽家、木村さん、佐伯市教育委員会社会教育課の方、などの尽力で、放課後教室の一環として、「東雲バンド」がスタートしました。本校からの希望参加者は現在のところ12名、小学校からは5名のようにです。中学生は主に火曜日の午後7時以降、月2回ペースで、公民館で楽器演奏の基礎から、楽しみながら学べるようです。「ふるさと創生」は佐伯市の教育の中の重要なキーワードになつていきます。音楽を通じて世代間の交流や、話題や笑顔の広がりにつながると

良いなと思います。生徒数の減少で、バレーや野球などの団体スポーツは編成しにくくなつてきました。プラスバンドの人数も減りましたが、楽器の演奏技術を身につけることは一生物の宝です。生涯にわたつて自分も楽しめるし、人を楽しませることもできますね。

餅砂？餅土？



僕たちが子ども頃、池田学酒店さんの前には砂浜が広がつていて、結構雄大（そう見えた）な海水浴場だと思つていて、夏になると青年団の方たちが（かつこよかつた！）冬に浜にあげていた「飛び込み台」を沖に運んで立ててくれていました。あんな思い物が何で人の力だけで沖に運ばれるのか、わからなかつた。（後に浮力を知る）だから、青年団の人々はすごく強いと信じていた。そして飛び込むとき頭から、行くことを「すみこみ」と呼んだ。（ようなきがする）「すみ」は潜る事だったのでないだろうか。「すみこみ」ができたら、次は「もちずな」を海底から取つてこなくてはならない。できなければ認められない。モチモチした触感の独特な砂。水中めがねが割れそうな音をたてる。恐い。（後に水圧を知る）遊びの中に学びがあつた……